

評価から評定への総括方法

令和7年4月
江戸川区立南篠崎小学校

1 観点別学習状況の評価の観点ごとの総括

観点別学習状況の評価のための総括の場面として、

- (1) 単元(題材)における観点ごとの評価の総括、
- (2) 学期末における観点ごとの評価の総括、
- (3) 学年末における観点ごとの評価の総括をABCの3段階で行う。

(1) 単元(題材)における観点ごとの評価の総括

単元(題材)において、具体的な学習活動に即して設定したいくつかの「学習活動における具体的評価規準」ごとに評価を行い、観点ごとにそれらの評価結果を総括する。

総括の方法は、最も数の多い記号がその単元(題材)における学習状況を最もよく表しているとの考え方に立ち、例えば、評価規準の数が三つあり、それぞれの評価規準に照らして行った評価結果が「A, A, B」なら「A」と総括する。

ただし、評価規準に照らして行った評価結果が、例えば「A, A, B, B」のように「A」と「B」が同数となる場合で、「A」、「B」が同数であれば「A」と総括する考え方(「A, A, B, B」で「A」とする)が、同じ記号でも幅があるので、それがわかる場合には考慮する。

また、教科によって、指導のねらいや授業時数、評価方法等に応じて、評価規準に重みを付ける場合もある。この場合、「A, A, B, B」でも、前2つの評価規準に重みが置かれていれば、Aが過半数を占めているのと同じ状況を示すこととなる。

このほか、教科における学習活動や評価の観点の特性を踏まえ、学習の途中段階において行った評価結果や学習の最終段階において行った評価を重視して総括するようにする。

(2) 学期末における観点ごとの評価の総括

学期末における総括については、(1) で総括した単元(題材)における観点ごとの評価結果をもとに行う。

学期末における観点別学習状況の評価(「A, B, C」)を導く総括の方法としては、上記(1)と同様の考え方に立つ。

(3) 学年末における観点ごとの評価の総括

各学期末における評価結果をもとに行う。学年末における観点別学習状況の評価(「A, B, C」)を導く総括の方法としては、上記(1)と同様の考え方で行う。

☆「知識・技能」でCが1つでもあれば Aではなく、Bとする。

A	A	A	A	B	A	B	A	B	C
A	A	B	A	B	B	B	C	C	C
A	B	B	C	B	C	C	C	C	C
A	A又はB		B	B	B	B	B	B又はC	C

上記(1) から(3) の総括において、学習の最終段階の評価を重視する考え方については、それによって途中段階の評価がおろそかにならないようにする配慮をする。

